

# V 学校研究計画

## 1. 研究主題・副題

### 子ども一人一人が主役の授業づくり ～子どもに学びを委ねる場の工夫～

## 2. 主題・副題設定の理由

### (1) 児童の実態から

本校の児童は、明るく素直な子が多く、課題に対してまじめに取り組もうとする。しかし、自分から意欲や問題意識をもち、課題を見つけて取り組む児童は少ない。また、学習活動における相手意識が低く、相手に伝わるように説明したり、友達の話聞いて自分の考えをもち、自分と比較して聞いたりすることに課題がある。自分の考えに自信がもてず、表現することに主体性が見られない子もいる。

### (2) 研究の経過から

昨年度までは、学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を身に付けた、たくましい子を育てる」ことを目指し、主題を「みんなで考える授業づくり」、副題を「考えを伝え合う場の工夫を通して」として研究を進めてきた。授業の中で、考えを伝え合う場面での手立てを工夫すれば、学級の児童全員が最後まで意欲的に参加できるだろうと考え、授業研究・授業実践を行った。自分の考えを表現する場を設定したり、何のための話し合いなのか、目的を明確にし、指し示しながら交流したりすることで、授業の後半でも意欲的に取り組める児童が増えてきたという成果があった。

中教審答申（2021）では、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の実現が求められている。変化の激しい世の中をたくましく生き抜いていかねばならない子どもたちに、一人でやりきる「たくましき」や多様な考えを受け入れる「しなやかさ」を身に付けさせ、自ら学びを深められる子に育てていきたい。

そのためには、これまでの授業実践を捉え直し、児童がより自分の足でふみ出し、進み、自分の歩みを実感し、次の一歩へつなげられるような授業スタイルに転換していくことが必要である。つまり、子どもを主役にした授業づくりについて研究を進めていきたい。

今年度は、研究主題・副題を「子ども一人一人が主役の授業づくり～子どもに学びを委ねる場の工夫～」とし、児童自らが学びの見通しをもち、主体的に学びを深めていくことができるような手立てを考えることで、「子ども一人一人が主役の授業づくり」を実現させていきたい。

### (3) めざす子どもの姿（＝主役の姿）

自らの学び方を意識し、自分の力で学習を深められる子

## 3. 研究仮説

児童が自らの学び方を意識でき、自分の力で学習を深められるよう、子どもに委ねる場を保証した「子どもが主役の授業」を構想すれば、自ら学び続ける児童が育つであろう。

## 4. 研究の重点

重点1 学び方を意識するための工夫

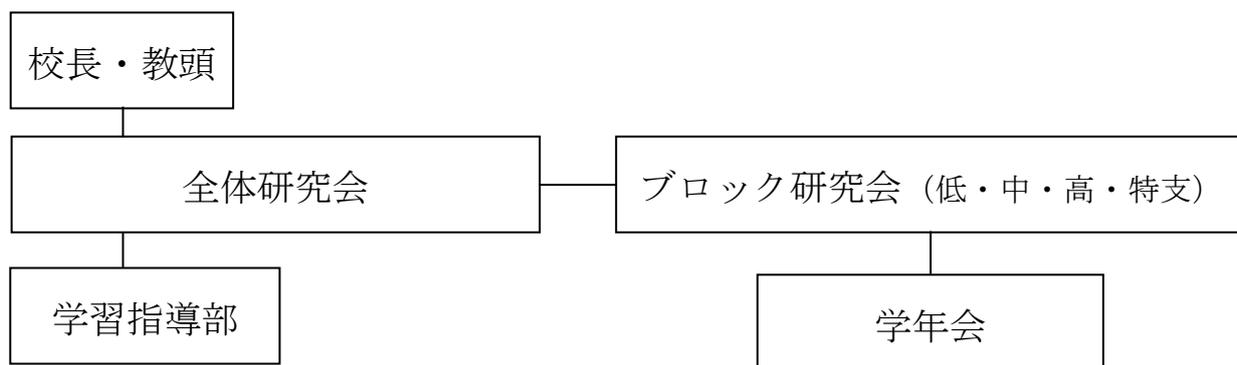
- ①学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て（主に単元・授業の導入）
- ②学び方の振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）

重点2 子どもに委ねる場の工夫

課題・方法・ツール・ゴール・立場などを選択、自己決定させる。

## 5. 研究の進め方

### (1) 研究組織について



### (2) 研究授業について

- ・低・中・高学年、特支ブロック研究会を組織する。
- ・級外は、それぞれ担当の低・中・高ブロックに所属する。
- ・研究授業は各学年で行う。今年度は、「個別最適な学び」「協働的な学び」を取り入れた授業づくりを通して授業改善に取り組む。研究授業を行うにあたり、当該単元は学年で同じ指導案をもとに共同実践を行う。級外は、担当の教科とする。
- ・各ブロックのいずれかで講師を招聘し、担当教科の全体研究授業を1回（計3回）行う。
- ・各ブロックのいずれかで担当教科のブロック研究授業を1回（計3回）行う。
- ・学年研究授業を学年で全員が行う。
- ・研究授業については、事前研究会・事後研究会をもつ。
- ・学習指導部は、各全体研究会、各ブロック研究会、学年会の運営を行う。

## 6. 研究構造図

学校教育目標

確かな学力と豊かな人間性を身につけた、たくましい子を育てる

研究主題

# 子ども一人一人が主役の授業づくり ～子どもに学びを委ねる場の工夫～

めざす子どもの姿

自らの学び方を意識し、自分の力で学習を深められる子

### 重点1 学び方を意識するための工夫

- ①学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て
- ②学び方の振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）

### 重点2 子どもに委ねる場の工夫

### 研究の評価・検証

- ・研究授業
- ・学力向上プランの評価問題
- ・アンケート（7月・12月）

### 工夫のポイント

- 学習計画表の作成
  - ・全員が取り組む内容と自分で決めて取り組む内容を設定する。
- 個の支援の充実
  - ・ミニテスト、単元テストを途中に入れる。
  - ・振り返りの充実（スプレッドシート・紙）
  - ・教師の実態把握・見取り・助言
- 環境づくりの工夫
  - ・実物に触れる環境（WSの活用）
  - ・1人1台端末のじゃぶじゃぶ活用（他者参照・途中参照・意見交換の場）
  - ・ワークシートやヒントカードの準備
- 評価・検証の視点
  - ・主体性（従来より自分から進んで取り組めた）
  - ・理解度（これまでよりわかりやすかった）
  - ・満足度（今後もこういう授業を続けたい）

### 「学び方」の指導の場

課題

過程

形態

### 基盤づくり

#### ○学習マナー

- ・返事「はいっ」
- ・チャイムスタート
- ・次の学習の準備

#### ○「話す・聴く・反応する」

- ・聴き方・話し方
- ・反応
- ・ノート

#### ○基礎・基本の定着

- ・漢字
- ・計算
- ・読書

#### 【生徒指導】

- ・自他を大切にするかかわり
- ・自己肯定感・自己有用感を育む認め合う場の設定

#### 【特別活動部】

- ・自分から進んで活動し、主体的にかかわる場の設定

#### 【特別支援】

- ・児童理解と合理的配慮
- ・全員参加の原則

## 7. 具体的な取り組み

(1) 授業の工夫・改善 「野々市小学校子ども一人一人が主役の授業づくりメニュー」

### 重点1 学び方を意識するための工夫

- ①学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て（主に単元・授業の導入）
- ②学び方の振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）

### 重点2 子どもに委ねる場の工夫

課題・方法・ツール・ゴール・立場などを選択、自己決定させる

展開	あらかると
1 開始時	・身だしなみ（名札・シャツ・スカート） ・姿勢（グー・ペタ・ピン）
2 導入 ◆見通し ◆課題設定  聴く! 見る! 意欲的!	<b>重点1 学び方を意識するための工夫</b> ①学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て ◆見通し ・「身に付く力」や「単元計画・授業計画」の提示 ・既習と比べる、図表や写真等を見せる、実演する ・何を学ぶかの焦点化 ◆課題設定 ・「～なのに、なのはなぜか」（違いやずれから原因を問う） ・「～するにはどうすればよいか」（目的から方法を問う） ・「～に気をつけて～しよう」（焦点化する） ・話し手の方に注目させる ・発表時の教師の率先垂範（聴く姿勢、目線、反応）
3 思考 ◆学習形態 ◆深める  委ねる! 見守る! 価値づける!	<b>重点2 子どもに委ねる場の工夫</b> ◆学習形態 <input type="checkbox"/> 個人思考・視覚情報の提示 ・具体物の操作 ・構造的な板書 ・立場の決定（二者択一・選択肢の提示 等） <input type="checkbox"/> ペア ・男女だれとでも仲よくする（関係づくり） ・体を向け合う <input type="checkbox"/> グループ・生活班、テーマ別、立場別… ・机と机をしっかりと合わせる（向け合う） <input type="checkbox"/> 個別最適・方法・ツールを選ばせる ・各自の活動を可視化する（モニター・名札等） ◆深める ・教師の誤答によるゆさぶり ・ねらいにせまるための問い返し ・活用問題（調査問題・評価問題の活用） ・適用問題（中心問題と同等かやや易しい問題） ・机間指導しながら①考えを価値づける②考えを拾い広げる③考えをなかなかもてていない子に助言や励ましをする
4 高める	<b>重点1 学び方を意識するための工夫</b> ②学び方の振り返りの工夫（主に単元・授業の終末） <input type="checkbox"/> まとめ ・自分の言葉で・やさしく友達に教えるように <input type="checkbox"/> 振り返り ・「～な力が付きました。」（身に付いた力） ・「なぜかという、～からです。」（どのように学んだか） ・「この力は～に生かせそうです。」（どう生かすか） ・「心に残ったことは～です。」（感動したこと）



## (2) 「学び方」の指導の場

＜子どもに学びを委ねるものさし＞（○で囲んで学びを委ねる姿を意識する）

場 \ 段階	1	2	3	4
＜課題＞	ほぼ教師が決める（全員同じ）	子どもに選択肢から選ばせる	子どもが選択肢をつくり、選ぶ	子どもが決める
＜過程＞ 方法 ツール ゴール 立場	教師が決める	子どもに選択肢から選ばせる	子どもが選択肢をつくり、選ぶ	子どもが決める
＜形態＞ ペア グループ テーマ別	教師が誰と学ぶか決める	教師が範囲を定めて、誰と学ぶか子どもが決める	活動の中で、誰と学ぶか子どもが決める	子どもが誰と学ぶか決める

## (3) 学習の基盤づくり

本校のこれまでの学校評価及び評価問題の分析により、学習に対する構えの指導と知識・技能の習得における充実が求められている。

### ○学習マナーの徹底

- ・次の学習の準備
- ・チャイムスタート(時間を守る)の取り組みを生徒指導部と連携して行う。
- ・「はいっ」という返事を徹底する。

### ○「聴く・話す・反応する」の育成

#### 【話し方・聴き方の指導】【反応するの取り組み】

- ・考えのわけが言えるように、友だちの話を最後まで聴くよう促す。**共感的な人間関係の育成**
- ・聴き方ステップ・反応するの掲示を活用し、反応しながら聴いたり、自分の考えと比べながら聴いたりする聴き方を育てる。**共感的な人間関係の育成**
- ・根拠を明確にし、相手に伝わるような話し方を育てる。**自己存在感の感受**

### ○基礎・基本の定着

#### 【漢字・計算】

「おはようタイム」の活用

朝の時間を活用して、取り組む。

《算数科》「計算の学習力」の学習を中心に行う。

「計算力パワーアップ週間」を毎学期設定し、定期的に計算力の充実を図る。

《国語科》 繰り返し練習することが効果的な言語事項

(ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字ことわざ・論語・故事成語など)

音読・暗唱・1分間スピーチ・視写・作文など

#### 【読書の習慣化】

- ・読書週間の取組を行い、図書館利用を促す。
- ・ののいち読書ノートを活用して「ののいち読書100選」読了率アップに取り組む。

#### 【家庭学習の習慣化】

- ・家庭学習の取り組み方がわかるように、家庭学習の手引きを学年ごとに作成・配布する。